

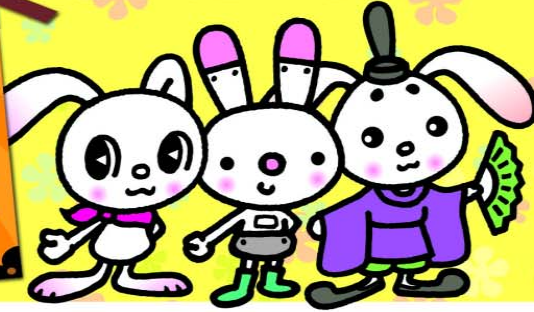


# エコちるどすえ かわら版

## 忘れたころにやってくる刊

## 創刊号

### 特大



発行: 京都大学大学院 医学研究科  
 エコチル調査 京都ユニットセンター  
 住所: 京都市左京区吉田近衛町  
 電話: 075-753-9499 (月~金 9:00~17:00)  
 メールアドレス: info@ecochil-kyoto.jp  
 ホームページ: http://ecochil-kyoto.jp/  
 発行日: 2012年12月20日

### スタッフのつぶやき



京都ユニットセンターのスタッフが交代でつぶやきます



みなさま! こんにちは!

エコチル調査京都ユニットセンターの小西郁生(こにしいくお)です。今、京大病院産婦人科で産科診療も行っていきますので、センター長に選ばれました。

当院の産科病棟には、重症の合併症をもつ多くの妊婦さんが入院されています。教授回診ではいつも医学生といっしょに、お母さん方のお腹を触らせていただき、「赤ちゃん、お元気?」と話しかけます。すると赤ちゃんが活発に動いてくれて、こちらの気持ちが伝わるかのようです。

最近、お腹の赤ちゃんはお母さんの心臓の音や話し声を聴いていることがわかってきました。妊娠中にどのように過ごすかは赤ちゃんの発育に何らかの影響があるのではないか?と思っています。

そのような中で2年前に、環境省のエコチル調査(赤ちゃんの発育、その後の成長と環境との関連性を調べる)がスタートしました。

今の日本の環境は、世界の中でも最も恵まれていますので、きっと良い結果が出てくるのではないかと期待しています。

たくさんの妊婦さんのご参加をお待ちしています。

私には一男一女がおります。二人とも私が倉敷に赴任していたとき、立て続けに「としご」で生まれてきました。私の専門分野ですので、もちろん出産に立ち会いました。

しかし、二人目のお産の直後、「今度は女の子!万歳!」と言って、すぐに飲みに行ってしまう、今でも怒られています。

私の趣味は..もちろん仕事です?? ..が、大好きなのは日本酒(真澄の夢殿)、温泉、演劇鑑賞です。



### 京都ユニットセンターからのお知らせ



エコチル調査にご協力くださり、ありがとうございます! エコチル調査は、全国15のユニットセンターで、3年間で10万人を登録することが目標です。妊婦さんの登録は2011年の1月から始まりましたので、現在でちょうど半分くらい、折り返し地点です。

### エコチル調査の進み具合

#### ①全国の状況

15地域のユニットセンター全体での登録数は、2012年12月現在、51,000人です。ほぼ予定通りに登録が進んでいます。

#### ②京都の状況

京都では、3年で5000人を登録する予定ですが、12月現在、1900人で、当初の予定の7割くらいです。

**15ユニットの中では、ほぼ最下位という成績で、登録して下さる妊婦さんを増やさないといけないのです!!**



そりゃまずいね

### そこで、みなさまにお願いします!



#### ①お友達にお声がけをお願いします

みなさんのまわりに、木津川市、左京区・北区、長浜市在住の妊婦さんがいらっしゃいましたら、エコチル調査にお誘いください。出産直前まで登録できます。

#### ②お子さんが13歳になるまでお付き合いをお願いします

エコチル調査は、みなさんが提供して下さる血液や母乳などの試料や、質問紙調査のデータがあって成り立っています。途中でやめられるのも自由ですが、みなさまのご協力がある研究です。末永いお付き合いをお願いいたします!

#### ③追加調査の「黄砂の研究」にもご協力をお願いします

黄砂研究は、黄砂がぜんそくなどと関連があるかどうかを調べる研究です。黄砂は、大陸の砂漠から飛んでくる砂で、砂漠化が進んでいるために日本に飛んでくる頻度が高くなりました。

黄砂が飛来すると、ぜんそくの症状が悪化することがわかっているのですが、黄砂の何が悪いのか、健康な子は浴び続けても大丈夫なのか、などはわかっていません。

京都ユニットセンターでは、富山・鳥取ユニットセンターと一緒に、黄砂の健康影響を調べています。ぜひ、こちらにもご協力ください。黄砂研究でお願いすることは、春・秋の黄砂シーズンに、月に数日、1分程度のケータイのアンケートにお答えいただくだけです。どうぞよろしくお願いいたします。



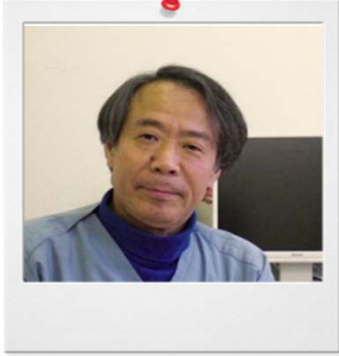


## 協力医療機関登場！

長浜赤十字病院 産科部長 宗重 彰(むねしげ あきら)先生



京都ユニットセンターでは、京都の北区・左京区、木津川市、長浜市の約20の医療機関にご協力いただいております。お忙しい日常業務の間にエコチル調査を実施していただき、感謝しております！



私は36歳の時に長浜に着任し、すでに28年が経ちました。

毎日の日常臨床に追われる中、つついしんどさのあまり、自分の仕事の価値を見失ってしまうこともありました。

しかし、最近では、四半世紀も前に、私自身が取り上げた子どもたちが、結婚され、妊娠、分娩され、そして、新しいお母さんとなっていきます。

「実は、私、宗重先生に取り上げてもらったんです」と嬉しそうにお声がけくださる方もいらっしゃいます。そんな時、私は、次々と命のリレーをしていくことの、本当の楽しさや嬉しさを、しみじみ感じています。

そのような折、子どもたちの成長・発達に影響を及ぼす環境因子を調査・研究するという、環境省による全国レベルのプロジェクトが計画され、私どもの医療機関も協力することになりました。

この調査は、胎児から子どもが成長するまで見守ることが必要なため、結果が出るまでに10年、20年とかかります。また、この調査は、今回調査に参加してくださるお母さん・お父さん・子どもたちに、今すぐには役に立たないかもしれませんが、しかし、調査の結果、大切な事実がわかれば、今後の子どもたちの健康のために対策を取ることができます。

また、たとえ悪影響のある物質が見つからなくても、それはそれで、今の日本では子どもたちに害を及ぼす物質は見られなかった、という素晴らしいメッセージを、胸を張って次世代に伝えることができます。本当に、胸ワクワクするような仕事ではありませんか？

そのような世代を超えた素晴らしいプロジェクトに、みなさんぜひ参加してみませんか？



先生ご自身がワクワクしながらエコチル調査にご協力くださり、本当にありがとうございます！



## おしえて！美保先生



京都ユニットセンターの産婦人科医、江川美保先生とうさ麻呂が妊娠・出産について語るのじゃ

### 妊娠中は、適正な体重増加量を！

うさ麻呂：環境、環境って言うのが、お母さんのおなかの中にいる赤ちゃんにとって「環境」って、一体なんじゃ？

先生：お母さんをとりまいて環境とお母さん自身、それが「環境」ですよ。受精卵の時点で両親からもらった遺伝子に組み込まれたもの以外は、すべて「環境」と言えます。

うさ麻呂：それなら、お母さんの栄養状態なんか「環境」にはいるわけじゃな？

先生：そのとおり！胎内の栄養状態が生まれたあとにまで及ぼす影響は、非常に注目されている研究テーマの一つなんですよ。

うさ麻呂：ほお、子どもの身体にどんな影響が出るのかのう？

先生：イギリスのBarker博士らは、「胎児期の低栄養状態と低体重出生はやがて肥満、糖尿病、心臓血管障害などの成人期のさまざまな生活習慣病に進展する」と提唱しています。

うさ麻呂：栄養不足のために低体重で生まれた子は、大人になってから病気になりやすいってことじゃな。なんでじゃろう？

先生：子宮内の赤ちゃんがずっと栄養不足でいると、そういう環境でも生存できるように「エネルギー節約型・栄養ためこみ型」の身体になるんですって。

うさ麻呂：それが生まれたあとずっと続いて、栄養をどんどんためこむのか。

先生：中高年のメタボは、生活習慣の影響が大きいです、おなかの中の環境ですでに体質が作られていることがあるんですね。

うさ麻呂：だけど、「妊婦は太らないで、赤ちゃんを小さく産んで大きく育てるのがいい」って聞いたことがあるぞよ。

先生：それは、「妊娠高血圧症候群や難産にならないように」ということから生じた間違っただけの方針だと、今では考えられています。

うさ麻呂：ふーん、間違いか…。じゃが、最近は低出生体重児が増えているんじゃない？

先生：そうなんです。出生時の体重が2500g未満の赤ちゃんが全出生数に占める割合は、徐々に増えてきて、いま1割くらいです。

うさ麻呂：昔は救命できなかった未熟児が救命されるようになったからか？

先生：それも一因ですが、妊婦さんや妊娠可能年齢の女性たちの「やせ傾向」が指摘されています。

うさ麻呂：今どきの若い女性は、太るのがいやみたいじゃのう。わしは、ぽっちゃり型が好きじゃが。

先生：食生活や体型は個人的な問題ではありますが、「次世代の健康」に思いを馳せていただくと、ありがたいですね。

うさ麻呂：んじゃ、どうするのがいいんじゃない？

先生：妊娠期間中は、適正な体重増加量を保つのがいいとされています。

うさ麻呂：適正な体重増加量ってなんじゃ？

先生：それは、妊娠する前の体格（やせか普通か肥満か）によって異なりますので、産科の担当の先生や助産師さんの助言を参考に管理してください。

うさ麻呂：妊婦さんご自身のためにも、赤ちゃんのためにも、大切なんじゃのう。わしも最近、腹まわりが立派になってきたから、気をつけるとするか。





こんにちは、赤ちゃん



京都ユニットセンターの小西行郎先生(同志社大学赤ちゃん学研究センター)と、ぼく(うさP)が、子育てに関するあれこれをお話します

おなかの赤ちゃんは笑ってる？

うさP：エコチル調査は、赤ちゃんがおなかの中にいるときから発達を見る研究ですが、それはなんでですか？

先生：赤ちゃんは、おなかの中でも動いていますね。おなかの中から人として育ち始めているからですよ。

うさP：技術が進歩して、おなかの赤ちゃんの様子が、驚くほどはっきり見えるようになりましたね。

先生：おかげで、面白いことがわかってきたんですよ。たとえば、胎児も笑ったり、しかめっ面をしたりしているんです。

うさP：へえ、誰も見ていないし、伝える必要もないのに、なぜですか？

先生：『赤ちゃん学』では、ヒトの表情は生まれつきできていると考えています。生まれつき目の見えない人も笑顔をつくります。つまり、他人の表情を学習して、「笑う」という表情ができるようになるのではなく、おなかの中からその表情を作ることができているんですね。

うさP：ふーん。でもなんでそんなに早くから準備してるのかな？

先生：そこはまだ謎なんだけどね。

うさP：なにか、意味がありそうですね。

先生：生まれてすぐの赤ちゃんでもお母さんの表情を真似することができます。それはお母さんの表情と自分の表情を、とりあえず合わせているだけかもしれませんが、重要なことは、表情を共有すること。

うさP：同じ表情をするってことですか？

先生：そうです。そうすることで、お母さんと赤ちゃんの間に心のつながり、つまり“共感”が生まれると言われています。

うさP：それが“笑顔”なら、なおいいですね。

先生：赤ちゃんの表情にもたくさんの不思議がつまっています。いろんな表情を試している赤ちゃんに、ときに合わせてあげるのも楽しいでしょう。赤ちゃんとの時間を大切に過ごしてくださいね。

うさP：こんど赤ちゃんに会ったら、ぼくもやってみようっと。



小西行郎先生監修のwebサイト「赤ちゃんCue」<http://www.akacue.net/>にアクセスして、赤ちゃんの不思議の世界をのぞいてみてください！

京都ユニットセンターでなにしているの？



ユニットセンターでの業務を、スタッフが交代で紹介します。今回は、質問票を管理しているみっちゃんです。

うさ美：みなさまにお願いしている質問票、ぶ厚いですよね～。

みっちゃん：ご記入、大変ですよ～。

うさ美：体調がよくなって、返却時期を過ぎちゃった場合とか、どうしたらいいの？

みっちゃん：質問票には「2週間をめぐりに返却してください」とありますが、それを過ぎてからのご返送でもかまいません。お時間を見つけて、ご返送いただければありがたいです！

うさ美：ところで、送ってくださった質問票は、どうやってデータ化してるの？

みっちゃん：質問票に、まずIDラベルを貼り付けます。

うさ美：データと個人情報、別にするってことですね。

みっちゃん：そうです。データはIDで管理します。個人情報の部分は、ご住所に変更がないかどうか確かめて、大切に保存します。

うさ美：データは、どうやって入力するんですか？

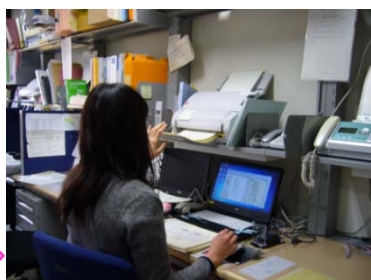
みっちゃん：入力には、OCRといって、自動で読み取ってくれる装置を使います。

うさ美：へえ、便利ですね。

みっちゃん：でも、正しく読み取っているかを、私達が目で見て確認するんですよ。

うさ美：そりゃ大変！

質問紙をデータ化しているところ。中央の機械がOCRで、読み取ったデータはパソコンに送られます



みっちゃん：参加者のみなさまが、貴重なお時間を使って記入してくださった大切なデータですから、担当者一同、間違いなく管理してデータ化するよう日々努めています。

うさ美&みっちゃん：どうかみなさま、質問票の返送、よろしくお願いいたします！

本大好き！



子どもたちには、物語好きになってほしいという願いから、スタッフが好きな絵本を紹介합니다。ナビゲータは、京都地区のコーディネータで、自称絵本オタクのあっちゃんです。〈あっちゃんのプロフィール〉小学生二人の母です。医療従事者としての経験を生かし、頑張ってます。

「もこ もこもこ」

谷川 俊太郎 (文)  
元永 定正 (絵)  
文研出版 1977年

謎の物体が「もこ」と生まれたり、「によきによき」と大きくなったり…。これはなんだろう？動物？植物？

鮮やかで不思議な絵は想像力を刺激し、あっちゃんのリズムよく綴られる詩のような文章は、息子のゆうくん聞くのも読むのも楽しい気持ちになります。親子ともどもはまる、絵本デビューにもおすすめの1冊です。





## コーディネーターどすえ

「コーディネーター」は、妊婦さんにエコチル調査に参加していただくために、保健センターや病院で、エコチル調査の説明をしている人です。妊婦さんのご協力が得られなければ、エコチル調査が成り立ちませんので、一番大事な業務でもあります。



京都ユニットセンターでは、約20人のコーディネーターが活動しておりますので、ご紹介しますね。今回は、木津川地区の山城病院に駐在している西・森井・飯尾の3人です。



みなさま、こんにちは！  
山城病院で、エコチル調査のご案内をしたり、採血や採尿の準備をしております。たくさんの妊婦さん、お父さんにご参加いただき、おかげさまでいつもフル回転！！

せわしく働いているかと思いますが、ブルー衣を着用して産婦人科外来におりますので、お気軽にお声をおかけくださいね。

独身時代は保育園で子どもたちと過ごしてきました。今回、エコチルの仕事をさせていただき、妊婦さんや、これから生まれてくる赤ちゃんたちの未来に役立つ調査に関わることができ嬉しく思います。

これからも山城病院でたくさんの妊婦さんにご協力いただけるよう取り組んでいきたいと思っております。  
西 美香 (にし みか)

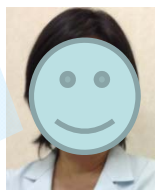


今まで、幼稚園や保育園で子どもたちと過ごしてきました。ご縁があってエコチルに携わらせていただいておりますが、みなさまのベビーちゃんのそのまたお子様方に良い結果が出ることを心待ちに、日々笑顔で取り組んでいます。

プライベートでは年2回のペースで夢の国へ魔法にかかりに行き、リフレッシュしています。  
森井 典子 (もりい のりこ)



英語教員の資格(独身時代、海外旅行が趣味で一番のお気に入りにはケニア)と、世界に通用する資格をと思い、看護師資格も持っています。実習の時、産婦人科が大好きで、このエコチルの仕事で再び産婦人科に関わることになり、とても嬉しいです。“子どもたちの将来のために、今、私たちが出来ること”、山城病院の妊婦さんはとてもエコチル調査にご理解をいただいております、感謝の気持ち一杯です。  
飯尾 都美 (いいお とみ)



## 編集後記



「えこちるどすえかわら版」の創刊号、いかがだったでしょうか。本当は登録開始直後から出したかったのですが、あーんなことこーんなことしているうちに開始1年半が経ち、ようやく実現しました。

定期的な発刊は自信ないので、「忘れたころにやってくる刊」という気まぐれな予定となっております。このつぎはいつお届けできるかミステリーですが、編集長(KS)と副編集長(KK)の独断と偏見による思わず腰がくだけるような記事を通して、京都ユニットセンターの業務やスタッフの横顔を少しでも知っていただき、親しみを覚えていただければと思っております。ご意見などございましたら、ユニットセンターまでお寄せください。

また、妊娠・出産、子育てに関するご質問も、美保先生や行郎先生のコラムの中でご紹介いたしますので、ぜひお寄せくださいね。エコチル調査では、長〜いお付き合いをお願いしておりますが、このニュースレターも息切れしないようにがんばります。どうぞよろしく！

## 京都ユニットセンターのキャラクター紹介



京都ユニットセンターでは4匹のうさぎがキャラクターとして活躍しています。

「なんでうさぎなんですか」とよく聞かれますが、さまざまなアイテムの制作をお願いしている会社のディレクターさんが、ふわふわしてかわいらしいこと、多産や安産の象徴であること、神様のお使いになることなどから、妊婦さんや赤ちゃんを守ってくれるキャラとしてご提案いただきました。

現代人(うさ美)と、未来人(うさP)、平安人(うさ麻呂)がそれぞれに地球環境を心配し、エコチル調査に協力しています。そして黄砂研究の助っ人として、コ・ウサが、大陸の砂漠からやってきました。

この4匹が、きっと京都ユニットセンターの業務を強力にバックアップし、見届けてくれることでしょう。

### 京野 うさ美



京都ユニットセンターのメインキャラクター。28歳女性。ユニットの仕事で日々忙しくしているが、いい人がいたらそろそろ結婚したいと思っている。本と映画、料理が好き。

### アール・うさP



2510年の未来からやってきたロボット。年齢不詳、男性。2510年の地球は、環境が破壊されていて地上には住めず、地下に都市を建設して住んでいる。うさ美の子孫が2010年ごろの事情を探るために送り込んできた。音楽が大好き、見かけによらずロマンチスト。

### 宇佐小路 うさ麻呂



1010年ごろの平安時代の住人で、厚生労働省と環境省を兼ねた役所の大臣。52歳男性。東大路を歩いているときに何かにつまづいて現在にタイムスリップ。うさ美の先祖でもある。自然を愛で、歌を詠む。現代のカレーと日本酒がお気に入り。

### コ・ウサ



黄砂研究の助っ人として大陸の砂漠からやってきた。24歳女性。砂漠の砂嵐のときに鼻水が出るようになり、アレルギーに。この砂が日本にも飛んでいって人々の健康に影響しているらしく、その研究が始まったと聞いて、いてもたってもいられずやってきた。神社仏閣巡りが趣味。

携帯メールに登録されていない方



携帯メール(わくポン)にご登録ください

ユニットセンターからの  
お知らせやお役に立つ情報を  
タイムリーにお知らせします  
[ecochil-kyoto@wadm.jp](mailto:ecochil-kyoto@wadm.jp)  
ハ空メールを送信してください